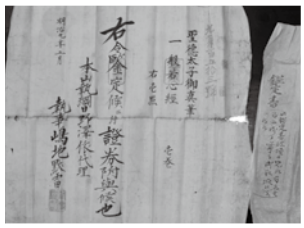
vol.259

岩田民次郎の聖徳太子信仰

西田 孝司（松原市文化財保護審議会）

◀「平和観音尊像」と手洗石・2基の碑（阿保3丁目）



▲伝聖徳太子「御真筆」般若心経の鑑定書（大阪老人ホーム蔵）

▲阿保茶屋「延命子安地蔵尊」（阿保4丁目）

▲大阪養老院に移された旧秋野坊太子殿〈大正6年ごろ〉（大阪老人ホーム蔵）

▲「摂津国四天王寺図」に描かれた秋野坊（四天王寺蔵）

四天王寺秋野坊の伝来品と人々の霊魂を祀る崇敬の念

明治三十五年（一九〇二）、岩田民次郎は大阪で初めて大阪養老院（現、社会福祉法人聖徳会大阪老人ホーム）を四天王寺東門前（大阪市天王寺区）に開設しました。養老院は、明治四十一年（一九〇八）に、阿倍野斎場北側（大阪市阿倍野区）に移ることになります。昭和十六年（一九四一）には現在地の阿保三丁目に松原分院がつくられ、昭和二十一年（一九四六）からは阿保の院舎を本院としたのでした（「歴史ウォーク」258）。

民次郎は聖徳太子を崇拝し、太子建立の四天王寺でも由緒ある支院でありながら、明治後半には廃たれていた秋野坊も借り受けていました。

同時に、秋野坊の寺宝などが散逸することを惜しみ、その保護にも努めました。現在、大阪老人ホームに安置されている聖徳太子像も秋野坊に祀られていたものです（「同」258）。

秋野坊は、四天王寺中之門から今の谷町筋沿いの大阪府夕陽丘庁舎あたりにありました。十八世紀初めごろ、橘守国によって描かれた「摂津国四天王寺図」に「秋野」と書かれた門や塀に囲まれた堂宇が見られます。民次郎は明治四十五年（一九一二）に太子殿とよばれていた堂を阿倍野の院舎に移し、聖徳殿と名づけたほどです。

阿保に受け継がれた大阪養老院には、松原に移転してきた戦前以降、民次郎や戦後まもなく二代院長となった岩田克夫によって、阿倍野時代に民次郎が所有・新造した仏教関係の遺品や石碑なども移されています。

野外には、前号で紹介した昭和二年（一九二七）の花立てに祀られた地蔵群や昭和四年の「侍従御差遣記念」碑があります。これ以外にも、ホーム東側に建つ「平和観音尊像」前に三点の遺品が見られます。

一つは、江戸時代末期の弘化五年（一八四八）三月、「世話人 神田町 熊吉」によって「奉納」された手洗石です。秋野坊に奉納されたものかは断定できませんが、神田町とは、今の大阪市西区阿波座にあった大坂三郷南組の町名と思われ、熊吉なる者が世話して奉納されました。

二つ、三つ目は、民次郎が皇室や歴代天皇を敬い、護国のために亡くなった全ての人々の霊魂を弔った二基の石柱です。「平和観音尊像」に向かって左側は、表面に「人祖累代乃尊霊」とあり、裏面には、昭和七年（一九三二）三月、皇霊祭日として祀ったことが民次郎の名と共に刻まれています。右側は、表面に「護国英霊」と記し、裏面には、昭和十四年（一九三九）七月とあります。

「平和観音尊像」は、民次郎が亡くなった一年後の昭和三十年（一九五五）に開眼供養したものです。像を製作したのは和泉華光で、戦前から民次郎のもとに経文で書いた仏画を届けていました。

現在、長尾街道と中高野街道が交わる阿保茶屋交差点北側、明治十五年（一八八二）の中高野街道道標の地に建つ等身大の「延命子安地蔵尊」も、もともと民次郎が戦前、養老院に祀っていた地蔵です。昭和三十一年、阿保茶屋地蔵尊として移されました。四天王寺中之門を入った地蔵山の本尊である立江地蔵を模したものと考えられます。

さらに、民次郎が大切にしていたのが、秋野坊から移された可能性のある般若心経です。聖徳太子が写した「御真筆」と伝え、四天王寺からの鑑定書も添えられています。鑑定書には、明治九年（一八七六）三月、当時、四天王寺の本山であった天台宗・延暦寺（滋賀県）より事務を任されていた執事の嶋地黙雷によって、「右令鑑定候ニ付證券附与候也」と記されています。黙雷はもともと浄土真宗の僧で、明治初期、廃仏毀釈の打撃で神道に従属させられていた仏教の新生のために努力したことで有名です。

般若心経を信仰してやまなかった民次郎にとって、何ものにも代えがたい心の拠りどころとなったでしょう。